

色丹（しこたん）島 ~なだらかな丘陵と入り江が「美しい島」~



色丹島は根室半島から東に73.3km先にある島で面積は247.7km²あり、島全体が比較的なだらかな山地・丘陵になっています。全島が高山植物地帯であるうえ、深い入り江など景勝地も多く、昭和初期には北海道の優れた景勝地である「十八景勝地」に選定されるなど、自然景観が美しい島です。

島一つで「色丹村」であり、206世帯、1,038人の日本人が暮らしていました。

当時の色丹島

色丹島は一つの島に1村（色丹村（1933年（昭和8年）に斜古丹^{しゃこたん}村から改称）で行政が行われていました。

色丹島の主産業は「千島海苔」の採取と捕鯨でした。海苔は1m20cmもあるものが採れ、海苔を売ることによって十分な生活ができていました。また、択捉島でも行われていた捕鯨ですが、色丹島の捕鯨は東洋一といわれていました。

北方四島の漁船の動力化は1913年（大正2年）に、色丹島と歯舞群島で石油発動船が試験的に導入されたのが始まりといわれています。その後急速に増加し、漁場の拡大や操業能力の向上と相まって漁獲量はおよそ4倍になったそうです。



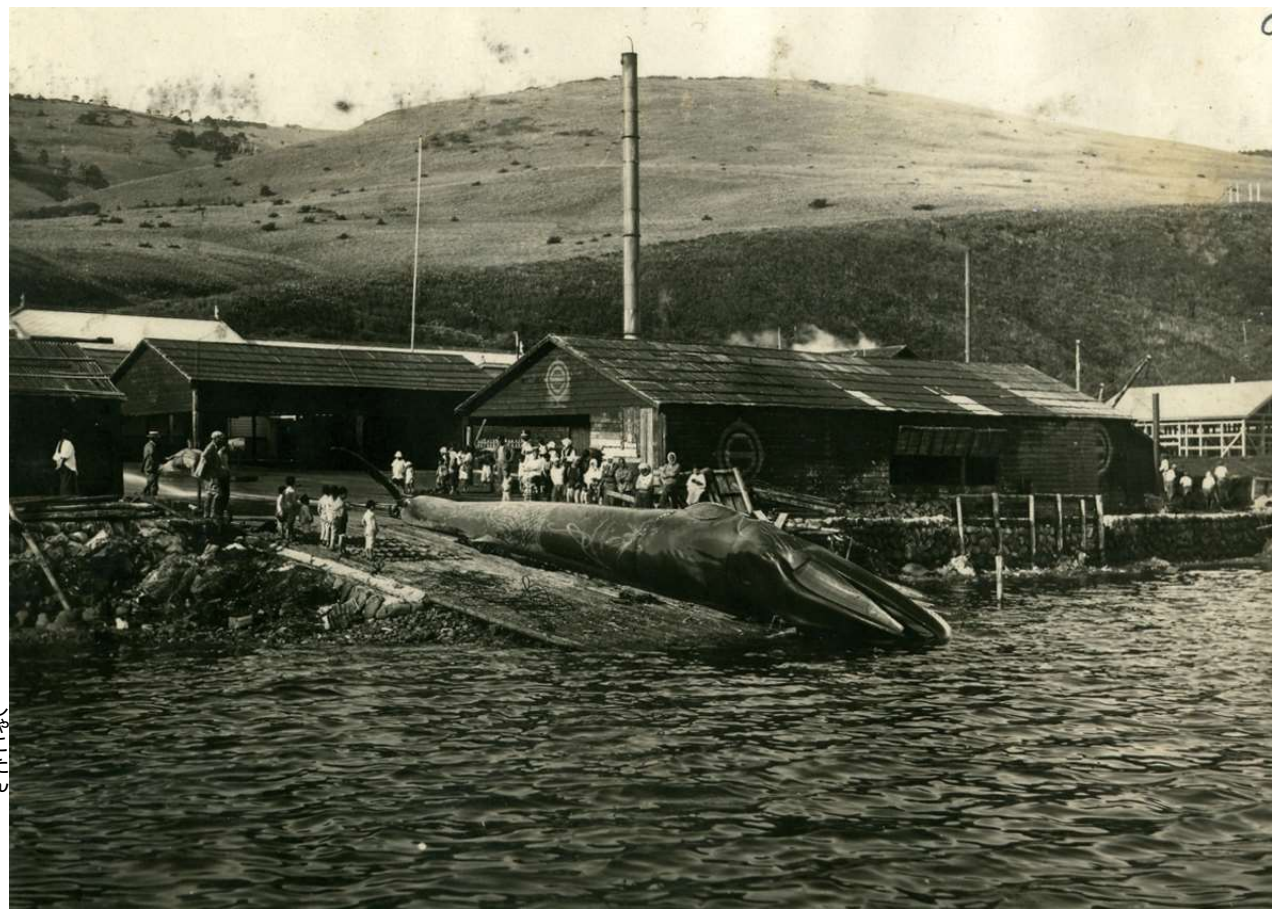
しゃこたん
斜古丹湾にて漁船入港



色丹神社鯨骨鳥居



しゃこたん
斜古丹市街



▶ 斜古丹捕鯨場
しやこたん



鯨の解体作業



海苔すき作業（左）、海苔乾かし作業（右）▶



あなま
◀ 六澗湾の夕日 (2019年5月撮影)

▶ チボイの灯台 (2019年7月撮影)



あいみさき
相見崎 (2019年7月撮影)



いねもしり
稲茂尻の海岸

現在の色丹島

あなま
穴澗には色丹島を管轄する行政府がありますが、穴澗より斜古丹しゃこたんに多くのロシア人が居住しています。

水産業では択捉島を拠点とするギドロストロイ社が2019年に穴澗に新しい水産加工場を建設し、最新の機械を導入しました。1日約900トンの魚を処理することができます。

道路はほとんど舗装されていません。木造の集合住宅がほとんどですが、近年新規住宅の建設が進んでいます。



あなま
穴澗港



上：幼稚園等
中：穴澗文化館
下：小中学校



教会



商店



ギドロストロイ社の新しい水産加工場